

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 ＜英訳＞	ILASセミナー：人文・社会科学の古典を読む ILAS Seminar :Reading classics in the humanities and social sciences			担当者所属 職名・氏名	文学研究科 教授 小山 哲		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)	10(10)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	文学部校舎第4演習室(本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	人文学 / 社会科学 / 古典 / 読解 / 議論						
[授業の概要・目的]							
「時事問題の騒音をBGMにしてしまうのが古典である。同時に、このBGMの喧噪はあくまでも必要なのだ。…もっとも相容れない種類の時事問題がすべてを覆っているときでさえ、BGMのようにささやき続けるのが、古典だ。」(イタロ・カルヴィーノ) 人文・社会科学には、古典とされている文献がある。そこで提示された概念や考え方がさまざまな議論や新たな研究を触発し、その分野が形成・発展していくうえで画期となったり、時代を超えて読み継がれてきたようなテキストである。 この授業では、人文・社会科学の分野で古典とされるテキストのいくつかを読み、その内容や歴史的背景を学ぶとともに、その文献の学術的な位置づけや現代的意義をめぐって、議論しながら考える。							
[到達目標]							
人文学や社会科学で古典とされる文献を読み、内容を理解し、議論する力を身につける。							
[授業計画と内容]							
以下のようなテキストをとりあげて、内容を確認したうえで、議論する。 第1回 オリエンテーション：古典とはなにか 第2回 イマヌエル・カント「啓蒙とは何か」 第3回 丸山眞男「超国家主義の論理と心理」 第4回 ハンナ・アレント「独裁体制のもとでの個人の責任」 第5回 マックス・ヴェーバー「職業としての学問」 第6回 カール・マルクス／フリードリヒ・エンゲルス「共産党宣言」 第7回 ゲオルク・ジンメル「橋と扉」 第8回 ヴァルター・ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」 第9回 ミシェル・フーコー「統治性」 第10回 アイザイア・バーリン「自然科学と人文学の分裂」 第11回 鶴見俊輔「言葉のお守りの使用法について」 第12～14回 受講生の選んだ古典を読む 第15回 フィードバック							
第1回は、授業の進め方について説明し、古典とはなにか、古典を読むことにどのような意味があるのか、いくつかの考え方を紹介する。							
ILASセミナー：人文・社会科学の古典を読む(2)へ続く↓↓↓							

ILASセミナー：人文・社会科学の古典を読む(2)

第2回以降は、各回の担当者を決めて、担当者による内容紹介と論点提起を手がかりとしながら、全員で議論する。

第12～14回には、受講生が選んだ古典をとりあげ、議論する予定。

なお、上記の予定は、受講生の希望や、授業の進行状況をふまえて、変更される場合もある。

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点評価：担当者としての発表(50点)、討論への参加(50点)

【教科書】

授業中に指示する

比較的短いテキストはコピーを配布するが、各自で書籍（文庫本程度）を購入するなり図書館で借りるなりして用意してもらう回もある。詳細については、第1回の授業時に説明する。

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

各回にとりあげるテキストを事前に読んでおくことが、授業に出席する前提である。授業前・授業後に、同じ著者による他のテキストを併せて読んだり、とりあげるテキストに関連する文献を調べたりすれば、さらに理解が深まるであろう。

【その他（オフィスアワー等）】

議論することを主たる課題とするので、履修人数を10名までに制限する。